

古紙回収

【東京】

東京本社管内では、環境問題への取り組みが浸透した結果、販売局が専売ASAを対象に実施した2019年度古紙回収実態調査によると、何らかの形で古紙を回収しているASAは867店(87.6%)。ほとんどのASAで古紙のリサイクルに取り組んでいる状況がうかがえます。

19年10月の回収量は13,322tでした。担当区域全域で回収を行っているASAも、昨年同様、過半数を占めています。

回答したASAは減りました(-8.4%)が、古紙の回収量は結果的に増えました(+3.3%)。ただし、新聞市場の縮小傾向や、行政や子ども会などによる回収の増加によって、全体の傾向としては減少が続いているとみられます。

今後も行政や子ども会の重要な活動資金源となっている実情に鑑みつつ、古紙回収に取り組んでいきたいと思えます。

古紙価格は、輸出価格、国内メーカー価格ともに大きな変動があり、予断を許さない状況が続いています。また、回収現場では古紙の持ち去りなどが引き続き問題となっており、今後とも行政や製紙会社、古紙問屋と連携し、確実な回収の取り組みをASAと継続していきたいと考えています。



ASAによる回収作業

【大阪】

大阪本社販売局では、これまでの取り組みを継続し、古紙と資源環境をテーマに新聞の古紙回収に取り組んでいます。近年は各地域の自治体が主体となり資源ごみの回収に力を入れていることもあり、ASAによる回収量自体は昨年と大きく変わりません。町内会や子ども会、既存の回収業者の流通慣行を乱さないという制約はあるものの、マンションに住む高齢者など重たい古紙を資源ごみに出すのが困難な家庭などではASAによる回収要望が高く、多くのASAが古紙回収を実施しています。

【西部】

西部本社管内の専売店においては、読者の希望があれば古紙の回収を実施しています。

【名古屋】

販売部とASAでは、読者サービスの一環として、古紙回収の要望のある読者に対し、回収を行っています。